



補足資料

P46～63

2007.11.6



第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

1.損益計算書推移

(単位：億円)

	2006年度実績						2007年度									
	上半期		下半期		年度実績		上半期実績			下半期予想		年度予想				
		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響	対7月公表	医薬品* 事業合計	(除) 欧州決 算期変更の 影響	対7月公表		対7月公表	医薬品* 事業合計	(除) 欧州決 算期変更の 影響		
前同比	<7.5>		<6.4>		<0.4>	<4.8>	<-8.7>		<4.4>	<-2.6>		<-5.8>		<4.2>	<6.5>	
売上高	4,858	3,958	4,437	3,979	9,295	7,937	4,437	277	4,273	4,132	4,323	113	8,760	390	8,596	8,455
売上原価	1,380	964	1,272	939	2,652	1,902	1,132	132	989	950	1,078	73	2,210	205	2,064	2,028
売上原価率	28.4%	24.3%	28.7%	23.6%	28.5%	24.0%	25.5%		23.1%	23.0%	24.9%		25.2%		24.0%	24.0%
販管費	2,695	2,345	2,585	2,489	5,280	4,834	2,366	-44	2,341	2,255	2,584	199	4,950	155	4,925	4,839
販管費率	55.5%	59.2%	58.3%	62.6%	56.8%	60.9%	53.3%		54.8%	54.6%	59.8%		56.5%		57.3%	57.2%
再掲) 研究開発費	849	799	857	834	1,707	1,633	783	-37	778	775	932	137	1,715	100	1,710	1,707
研究開発費率	17.5%	20.2%	19.3%	21.0%	18.4%	20.6%	17.6%		18.2%	18.7%	21.6%		19.6%		19.9%	20.2%
前同比	<-2.5>		<-22.1>		<-11.9>	<-14.9>	<-19.9>		<27.8>	<42.7>	<14.0>		<17.4>		<24.5>	<32.3>
営業利益	784	650	580	551	1,363	1,201	939	189	946	927	661	-159	1,600	30	1,607	1,588
営業利益率	16.1%	16.4%	13.1%	13.8%	14.7%	15.1%	21.2%		22.1%	22.4%	15.3%		18.3%		18.7%	18.8%
前同比	<6.7>		<-17.1>		<-4.8>	<-8.0>	<14.2>		<20.9>	<35.4>	<10.1>		<12.4>		<18.4>	<26.1>
経常利益	882	733	639	612	1,521	1,345	1,007	207	1,014	992	703	-147	1,710	60	1,717	1,695
経常利益率	18.2%	18.5%	14.4%	15.4%	16.4%	16.9%	22.7%		23.7%	24.0%	16.3%		19.5%		20.0%	20.1%
前同比	<35.3>		<-69.5>		<-10.4>	<-53.8>	<-9.9>		<14.9>	<25.2>	<240.9>		<27.3>		<140.8>	<174.8>
当期純利益	669	458	117	-105	785	353	602	162	593	573	398	-82	1,000	80	991	970
当期利益率	13.8%	11.6%	2.6%	-2.6%	8.5%	4.4%	13.6%		13.9%	13.9%	9.2%		11.4%		11.5%	11.5%

*医薬品事業合計については、2007年度との比較を容易にするために、継続対象としている事業について記載しております。従って、決算上の医薬品事業とは異なります。

【特記事項】

2007年度上半期実績（前期との比較）

【プラス要因】

2007年度は、欧州子会社の第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、上半期は2007年1月-2007年9月の9ヶ月を計上しております。
その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円、経常利益21億円、純利益20億円であります。

【マイナス要因】

2006年度は、米国子会社2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、上半期は2006年1月-2006年9月の9ヶ月を計上しております。
その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、純利益58億円であります。

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。2006年度上半期には、連結子会社のうち、和光堂（株）、富士製粉（株）等、2006年度下半期には第一化学薬品（株）、（株）第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ（株）、目黒化工（株）、三共エール薬品（株）、第一メディカル（株）等が連結除外となりました。
2007年度上半期には第一ファインケミカル（株）、埼玉第一製薬（株）等が連結除外となっております。

2007年度業績予想

上半期実績には、当初業績予想には含まれていない非医薬品事業各社の実績が計上されておりますが、引き続きグループ外への自立化に取り組んでおりますので、下半期業績予想に反映しておりません。

2.為替レート

	2006年度実績		2007年度		
	上半期	年度	上半期実績	下半期予想	
					7月 公表
円/USD（期中平均）	115.9	117.0	119.3	115	115
円/EUR（期中平均）	142.2	146.1	160.4	155	140

【為替の影響】

上半期実績

予算レートに対し、1ドル約5円、1ユーロ約20円の円安となったため、**売上高114億円、営業利益12億円**の増収増益要因となりました。

年度業績予想

1円の為替変動によるUSドルベースの売上高への影響は約18億円、営業利益への影響は約3億円と見ております。
同様に、ユーロベースの売上高への影響は約5億円、営業利益に対しては軽微な影響と見ております。

3. グローバル製品売上高

(単位：億円)

	2006年度実績				2007年度											
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績				下半期予想				年度予想			
					対7月公表	前同比	決算期 変更除 前同比	対7月公表	前同比	対7月公表	前同比	決算期 変更除 前同比				
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	840	763	1,603	73.5%	966	11	15.1%	32.1%	1,054	59	38.0%	2,020	70	26.0%	35.2%	
日本：オルメテック	194	228	422	64.9%	264	-21	36.0%	-	346	1	51.7%	610	-20	44.5%	-	
米国： ベニカー/ ベニカーHCT* エイゾール	533	395	928	84.4%	445	5	-16.5%	18.1%	443	13	12.3%	888	18	-4.3%	15.1%	
欧州：オルメテック/ オルメテックプラス**	101	124	225	53.2%	-	-	-	-	32	5	-	32	5	-	-	
その他	12	16	28	56.2%	223	18	121.6%	58.0%	197	32	58.1%	420	50	86.4%	58.1%	
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	488	553	1,041	2.6%	34	9	189.6%	-	36	8	118.3%	70	17	148.9%	-	
日本：クラビット	210	257	467	-6.9%	529	19	8.4%	-	571	1	3.2%	1,100	20	5.6%	-	
輸出等	193	191	384	10.6%	221	-9	5.1%	-	289	-1	12.4%	510	-10	9.1%	-	
特許料	85	104	190	14.4%	216	21	11.9%	-	179	-1	-6.3%	395	20	2.8%	-	
プラバスタチン 【高脂血症治療剤】	520	415	935	-34.7%	92	7	8.6%	-	103	3	-2.0%	195	10	2.8%	-	
日本：メバロチン	348	330	678	-9.9%	403	-2	-22.4%	-25.5%	387	12	-6.9%	790	10	-15.5%	-17.3%	
欧州**	33	27	60	9.1%	317	-13	-9.0%	-	323	3	-2.0%	640	-10	-5.6%	-	
輸出等	139	59	198	-68.4%	41	4	26.4%	-22.7%	21	-2	-24.2%	62	2	3.4%	-23.4%	
					45	7	-67.7%	-	43	11	-26.8%	88	18	-55.5%	-	

*米国オルメサルタン（製品名：ベニカー）の2006年度実績は、決算期の変更により、2006年1月-2007年3月の15ヶ月分を計上しております。

2006年度上半期は、2006年1月-9月の9ヶ月分を計上しており、1月-3月の実績は、156億円（\$135mil）であります。

**欧州オルメサルタン（製品名：オルメテック）、プラバスタチンの2007年度は、決算期の変更により、2007年1月-2008年3月の15ヶ月分を計上します。

2007年度上半期は、2007年1月-9月の9ヶ月分を計上しており、1月-3月の実績は、オルメサルタン64億円（€40mil）、プラバスタチン16億円（€10mil）であります。

4. 海外売上高

(単位：億円)

	2006年度実績				2007年度											
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績				下半期予想				年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	前同比	対7月公表	前同比						
北米*	1,350	1,069	2,419	32.4%	1,112	122	-17.6%		1,088	38	1.8%	2,200	160	-9.0%		
欧州**	446	397	843	-14.3%	567	37	27.3%		413	43	3.8%	980	80	16.2%		
その他	151	154	305	16.5%	206	76	36.1%		134	4	-12.8%	340	80	11.4%		
海外売上高	1,946	1,621	3,567	16.1%	1,885	235	-3.2%		1,635	85	0.9%	3,520	320	-1.3%		
対売上高比率	40.1%	36.5%	38.4%		42.5%				37.8%			40.2%				

その他：中国、韓国、タイ、台湾、ブラジル、ベネズエラ等

*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月-2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円であります。

**2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円であります。

5.セグメント別情報（事業別）

(単位：億円)

	2006年度実績			2007年度実績	
	上半期	下半期	年度	上半期	前同比
国内医療用医薬品	2,152	2,182	4,334	2,145	-0.3%
海外医療用医薬品*	1,852	1,529	3,381	1,847	-0.3%
ヘルスケア	246	233	479	244	-0.6%
医薬品事業	4,414	3,957	8,371	4,240	-3.9%
その他事業	444	479	924	197	-55.7%
連結売上高	4,858	4,437	9,295	4,437	-8.7%
医薬品事業	759	555	1,314	942	24.1%
その他事業	23	21	44	-4	-
連結営業利益	784	580	1,363	938	20.0%

*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトボルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月～2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

6.セグメント別情報（所在地別）

(単位：億円)

	2006年度実績						2007年度実績		
	上半期		下半期		年度		上半期		前同比
		構成比		構成比		構成比	構成比		
日本	3,420	70.4%	3,259	73.5%	6,678	71.9%	2,954	66.6%	-13.6%
北米*	1,085	22.3%	829	18.7%	1,915	20.6%	897	20.2%	-17.4%
欧州**	273	5.6%	261	5.9%	534	5.7%	453	10.2%	66.0%
その他	80	1.6%	88	2.0%	168	1.8%	133	3.0%	66.5%
連結売上高	4,858	100.0%	4,437	100.0%	9,295	100.0%	4,437	100.0%	-8.7%
日本	716		411		1,127		694		
北米	339		34		373		225		
欧州	54		14		68		34		
その他	3		5		8		13		
連結営業利益	784		580		1,363		966		

*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトボルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月～2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

**2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

7.主要経営指標

	2006年度実績		2007年度	
	上半期	年度(末)	上半期実績	年度予想
配当性向(連結)	32.7 %	55.7 %	42.1 %	50.5 %
1株当たり利益(EPS)	91.7 円	107.7 円	83.1 円	139.1 円
1株当たり配当金	30.0 円	60.0 円	35.0 円	70.0 円
純資産配当率(DOE)	1.7 %	3.5 %	4.0 %	
自己資本当期純利益率(ROE)	5.3 %	6.3 %	4.8 %	
1株当たり純資産(BPS)	1,756.3 円	1,740.2 円	1,761.9 円	
自己資本比率	78.3 %	77.5 %	83.6 %	
期末発行済株式総数	729,027 千株	729,002 千株	718,983 千株	
期末株価(終値)	3,350 円	3,610 円	3,450 円	
連結子会社数	54 社	54 社	46 社	
連結要員数	18,604 名	15,358 名	15,655 名	
(再掲) 国内要員数	13,678 名	10,379 名	9,635 名	
海外要員数	4,926 名	4,979 名	6,020 名	

8.設備投資および減価償却費

	2006年度実績		2007年度	
	上半期	年度	上半期実績	年度予想
減価償却費	190 億円	399 億円	188 億円	380 億円
設備投資(工事ベース)	135 億円	315 億円	130 億円	

9.単元株式の所有者別状況

	2006年9月末			2007年3月末			2007年9月末		
	株主数		構成比	株主数		構成比	株主数		構成比
	(名)	(百万株)		(名)	(百万株)		(名)	(百万株)	
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
金融機関	178	341	46.5%	186	347	47.4%	192	343	46.7%
証券会社	40	10	1.4%	58	12	1.8%	65	17	2.4%
その他の法人	593	48	6.6%	647	49	6.7%	653	44	6.0%
外国法人等	600	241	33.0%	638	234	31.9%	614	221	30.2%
個人・その他	49,077	91	12.5%	52,290	89	12.2%	58,079	91	12.5%
自己株式	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	16	2.2%
合計	50,490	733	100.0%	53,821	733	100.0%	59,605	733	100.0%

10.国内の状況

主要医療用医薬品売上高（建値売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比			
国内医療用医薬品売上高（純売上高）	2,061	2,143	4,204	1.8%	2,110	-70	2.4%	2,320	-20	4,430	-90	5.4%
循環器関連疾患領域												
オルメテック【高血圧症治療剤】	194	228	422	65.4%	264	-21	36.0%	346	1	610	-20	44.5%
カルブロック【高血圧症治療剤】	41	47	88	38.0%	48	-12	17.2%	67	-8	115	-20	31.0%
アーチスト【高血圧症治療剤】	96	97	193	5.9%	106	-9	10.2%	114	-1	220	-10	14.0%
メパロチン【高脂血症治療剤】	348	330	678	-9.9%	317	-13	-9.0%	323	3	640	-10	-5.6%
クレメジン【慢性腎不全用剤】	61	61	122	-6.4%	62	-3	1.6%	68	3	130	0	6.7%
ハンブ【急性心不全剤】	42	50	92	5.8%	45	-1	7.8%	55	1	100	0	8.9%
リパロ【高脂血症治療剤】	25	26	51	23.9%	26	-7	6.7%	34	-3	60	-10	16.9%
サンリズム【不整脈治療剤】	59	58	117	-1.3%	62	2	4.5%	58	-2	120	0	2.3%
ベプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	11	12	23	25.8%	13	1	18.8%	14	0	27	1	17.3%
ファスティック【血糖降下剤】	27	27	54	0.6%	26	-1	-3.0%	24	-4	50	-5	-7.3%
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器												
クラビット【合成抗菌剤】	210	257	467	-6.9%	221	-9	5.1%	289	-1	510	-10	9.1%
ロキソニン【消炎鎮痛解熱剤】	149	160	309	8.0%	164	-6	9.7%	186	6	350	0	13.2%
モービック【消炎鎮痛剤】	54	53	107	0.7%	54	-11	-0.5%	61	1	115	-10	7.8%
ユリーフ【排尿障害改善剤】	11	12	23	-	23	-6	120.9%	52	1	75	-5	231.4%
ジルテック【抗アレルギー剤】	51	69	120	-4.8%	45	0	-11.0%	55	5	100	5	-16.4%
造影剤/癌/消化器												
オムニバーク【造影剤】	164	151	315	-9.1%	159	-21	-2.7%	161	1	320	-20	1.5%
オムニスキャン【MRI用造影剤】	27	25	52	-2.6%	25	-2	-8.5%	23	-5	48	-7	-8.5%
トボテシ注【抗悪性腫瘍剤】	26	28	54	12.1%	31	2	17.8%	29	-2	60	0	10.5%
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	20	18	38	-18.2%	16	-3	-16.9%	16	-2	32	-5	-15.8%
フエロン【天然型インターフェロンβ製剤】	19	21	40	9.6%	19	-5	-1.2%	28	-3	47	-8	17.3%

主要ヘルスケア製品売上高

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比			
ヘルスケア売上高（純売上高）	246	233	479	-	244	-16	-0.6%	276	16	520	0	8.4%
ルル類	53	47	100	7.7%	48	-7	-9.5%	59	4	107	-3	6.7%
ガスター10	17	19	36	-	17	0	0.2%	20	-2	37	-2	3.1%
新三共胃腸薬類	14	16	30	2.2%	13	-1	-7.6%	20	0	33	-1	11.7%
バテックス類	11	8	19	-3.5%	18	0	61.4%	14	2	32	2	66.7%
トランシーノ	-	-	-	-	14	-	-	20	-	34	-	-

(単位：億円)

	2006年度		2007年度		備考(06→07増減)
	上半期 実績	上半期 実績	上半期		
			実績	対前同	
医療用医薬品売上高(純売上高)	2,061	2,110	49		
循環器関連疾患領域					
オルメテック【高血圧症治療剤】	194	264	70		薬物受容体との強固な結合により得られる強力な降圧効果、心血管系疾患をテーマとした血管保護作用が医療現場に浸透しつつあり、市場の成長を大きく上回る拡大。
カルブロック【高血圧症治療剤】	41	48	7		持続的降圧効果、心・腎保護作用における優位性の訴求が奏効し堅調に推移。
アーチスト【高血圧症治療剤】	96	106	10		慢性心不全に唯一効果のあるβ遮断剤として心疾患領域での処方堅調に推移していることに加え、オルメテックおよびカルブロックを併せた情報提供によって高血圧症の処方も順調に拡大。
メバロチン【高脂血症治療剤】	348	317	-31		日本人対象の大規模臨床試験MEGA Studyによるエビデンスや、改訂ガイドラインに基づき適正使用を継続推進。スタンダードスタチン好適患者への処方が拡大するも、後発品や競合品の攻勢により減少。
クレメジン【慢性腎不全用剤】	61	62	1		尿毒症症状改善効果、透析導入遅延効果などを訴求する中で、CKD(慢性腎臓病)診療ガイドにおいて重度の患者に対する経口吸着薬(クレメジン等)の処方が推奨されたことも追い風となり新規処方拡大。
ハンパ【急性心不全剤】	42	45	3		急性心不全治療における第一選択薬としての高い有用性が浸透。新規処方拡大。
リバロ【高脂血症治療剤】	25	26	1		スタチンのバイオオナーメーカーとしてメバロチンとともに脂質異常症に対する適切な薬物治療提案により処方拡大。
サンリズム【不整脈治療剤】	59	62	3		エビデンスやガイドラインに基づき、心房細動のリズムコントロールに対する第一選択薬として継続的に伸長。
ベプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	11	13	2		他剤無効例や難治例に対する治療ニーズは高い。一方で、安全性を担保するための情報および適正使用情報の提供を推進。
ファスティック【血糖降下剤】	27	26	-1		グリニド製剤2製品4ブランドで構成されるグリニド製剤市場において、前同を僅かながら下回るもトップシェアを維持。
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器					
クラビット【合成抗菌剤】	210	221	11		標的市場は前同を下回ったものの、高い安全性と強い抗菌力、幅広い適応菌種を兼ね備えたキノロン製剤としてクラビットは継続拡大。
ロキソニン【消炎鎮痛解熱剤】	149	164	15		強さ・速さ・安全性のバランスの取れた製品特性と高いブランド力が奏効し、発売20年以上経過した今も処方が拡大。ロキソニンパップも投与制限解除を経て順調に処方を拡大。
モービック【消炎鎮痛剤】	54	54	0		競合品となるCOX-2阻害剤が発売されたが、ロキソニンとの製品間シナジーによって前同を維持。
ユリーフ【排尿障害改善剤】	11	23	12		優れた自・他覚症状改善効果を市場に訴求し、投与制限解除以降も順調に売上を拡大。
ジルテック【抗アレルギー剤】	51	45	-6		アレルギー性鼻炎や蕁麻疹領域などで処方を確保したものの、多くの後発品が上市され減収。
造影剤/癌/消化器					
オムニパーク【造影剤】	164	159	-5		包括医療による後発品処方の拡大などにより減収。
オムニスキャン【MRI用造影剤】	27	25	-2		ガドリニウム系MRI用造影剤に関する安全性強化の観点から添付文書の改訂を行い適正使用情報の提供活動を徹底。
トボテシン注【抗悪性腫瘍剤】	26	31	5		エビデンスに基づく有用性訴求が奏効し、多様な薬物療法メニューへの組み入れが伸長。
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	20	16	-4		後発品を含む免疫療法の縮小により減収。
フェロン【天然型インターフェロンβ製剤】	19	19	0		低下しているインターフェロン製剤市場の中で、唯一C型代償性肝硬変に対する適応がある製剤として処方を維持。9月にC型慢性肝炎に関する抗ウイルス薬リパビリンとの併用療法について承認申請。

(単位：億円)

	2006年度		2007年度		備考(06→07増減)
	上半期 実績	上半期 実績	上半期		
			実績	対前同	
ヘルスケア売上高(純売上高)	246	244	-2		
ルル類	53	48	-5		店頭消化は順調に推移したものの、総合感冒薬市場が低迷していることに加え、昨年8月に『ルルアタックIB』を新発売した反動もあり減収。
ガスター10	17	17	0		口中溶解タイプの『ガスター10S錠』の定着などにより前年同期並みの売上を維持。
新三共胃腸薬類	14	13	-1		店頭消化は順調に推移したものの、胃腸薬市場が低迷する中で売上は微減。
パテックス類	11	18	7		近年伸張が著しいフェルピナク市場に『パテックスフェルピナク』シリーズ3品(5・35・シップ)を新発売し、大幅増収に貢献。
トランシーノ	-	14	14		大型化が期待される新効能医薬品として9月に発売後、肝斑(かんぱん)の啓発活動などにより店頭での新市場を創造。

主要輸出製品売上高（建値売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績			下半期予想		年度予想		
					対7月公表	前同比		対7月公表		対7月公表	前同比	
レボフロキサシン【合成抗菌剤】	163	161	324	9.6%	171	16	5.0%	149	-6	320	10	-1.1%
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	148	68	216	-66.6%	33	2	-77.7%	27	10	60	12	-72.2%

11. 海外の状況

米子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							決算期変更除		
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績			下半期予想		年度予想			前同比	
					対7月公表	前同比		対7月公表		対7月公表	前同比	上半期	年度	
第一三共INC. (DSI)	736	568	1,304	70.3%	651	31	-11.6%	659	19	1,310	50	0.4%	20.4%	18.1%
ベニカー/ベニカーHCT	533	395	928	84.4%	445	5	-16.5%	443	13	888	18	-4.3%	18.1%	15.1%
【高血圧症治療剤】 (mil USD)	(460)	(333)	(793)	73.9%	(373)	(-8)	-18.9%	(383)	(5)	(756)	(-3)	-4.6%	14.8%	15.0%
エイゾール	-	-	-	-	-	-	-	32	5	32	5	-	-	-
【高血圧症治療剤】 (mil USD)	-	-	-	-	-	-	-	(28)	(5)	(28)	(5)	-	-	-
ウェルコール	131	101	232	56.8%	114	14	-13.1%	126	1	240	15	3.4%	23.8%	24.3%
【高脂血症治療剤】 (mil USD)	(113)	(85)	(198)	48.1%	(96)	(7)	-15.6%	(109)	(2)	(205)	(9)	3.5%	20.3%	24.8%
フロキシソティック	45	37	82	33.8%	54	-1	21.2%	11	-24	65	-25	-21.2%	-	-
【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	(39)	(32)	(71)	29.7%	(45)	(-3)	17.7%	(9)	(-21)	(54)	(-24)	-24.1%	-	-
エボザック	13	16	29	22.5%	21	6	60.8%	17	0	38	6	29.1%	-	-
【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	(11)	(14)	(25)	18.7%	(18)	(5)	56.2%	(14)	(-1)	(32)	(4)	28.6%	-	-
ルイトネ® ルド® ファーマシューティカス Inc. (LPI)	350	260	610	54.5%	246	46	-29.6%	224	24	470	70	-23.0%	7.1%	-4.2%
ヴェノファア	206	171	377	66.7%	148	48	-28.4%	137	27	285	75	-24.4%	7.6%	-7.5%
【貧血治療剤】 (mil USD)	(178)	(144)	(322)	57.1%	(124)	(35)	-30.4%	(121)	(26)	(245)	(61)	-23.9%	4.6%	-6.7%

ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコール、ヴェノファアの2006年度実績は、2006年1月-2007年3月の15ヶ月の実績となっております。

（2006年1-3月実績）：ベニカー/ベニカーHCT 156億円（\$135mil）、ウェルコール 39億円（\$33mil）、ヴェノファア 68億円（\$59mil）

欧州子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							決算期変更除		
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績			下半期予想		年度予想			前同比	
					対7月公表	前同比		対7月公表		対7月公表	前同比	上半期	年度	
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	267	249	516	17.8%	453	53	71.1%	317	27	770	80	49.1%	17.7%	21.7%
オルメテック/オルメテックプラス	101	124	225	53.2%	223	18	121.6%	197	32	420	50	86.5%	58.0%	58.1%
【高血圧症治療剤】 (mil EURO)	(71)	(83)	(154)	44.1%	(139)	(-8)	96.5%	(127)	(9)	(266)	(1)	72.7%	39.9%	46.7%
メバロチン	33	27	60	9.1%	41	4	26.4%	21	-2	62	2	3.4%	-22.7%	-23.4%
【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	(23)	(18)	(41)	2.6%	(26)	(-1)	12.1%	(13)	(-2)	(39)	(-3)	-4.5%	-31.6%	-29.0%

オルメテック/オルメテックプラス、メバロチンの2007年度上半期実績は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月の実績となっております。

（2007年1-3月実績）：オルメテック/オルメテックプラス 64億円（€40mil）、メバロチン 16億円（€10mil）

(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考 (06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
レボフロキサシン【合成抗菌剤】	163	171	8	欧・米ともに現地消化は引き続き堅調に推移。
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	148	33	-115	欧米主要国における特許満了により減少。

(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考 (06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
第一三共INC. (DSI)	736	651	-85	
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	533 (460)	445 (373)	-88 (-87)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+69億円(+48mil USD) 市場の拡大に加え、プロモーションの積極展開、製品特性の浸透等により成長持続。
エイゾール 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	- -	- -	- -	強化された営業体制によって10月より販促を開始。 (フォレスト・ラボラトリーズ社と共同販促)
ウェルコール 【高脂血症治療剤】 (mil USD)	131 (113)	114 (96)	-17 (-17)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+22億円(+16mil USD) プロモーション数増加により増収基調を堅持。
フロキシシオティック 【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	45 (39)	54 (45)	9 (6)	10月にジェネリックが発売されたことから今後の販売動向を注視。
エボザック 【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	13 (11)	21 (18)	8 (7)	シェーグレン症候群の認知度も向上し一般開業医での処方も拡大。
ライト・ルト [®] ファーマシューティカルズ Inc. (LPI)	350	246	-104	
ヴェノファア 【貧血治療剤】	206 (178)	148 (124)	-58 (-54)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+10億円(+5mil USD) 後発品が上市されなかったこともあり、前年同期並の売上を維持。

ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコール、ヴェノファアの2006年度実績は、2006年1月-2007年3月の15ヶ月の実績となっております。

(2006年1-3月実績)：ベニカー/ベニカーHCT 156億円 (\$135mil)、ウェルコール 39億円 (\$33mil)、ヴェノファア 68億円 (\$59mil)

(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考 (06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	267	453	186	
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】 (mil EURO)	101 (71)	223 (139)	122 (68)	欧州子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+58億円(+28mil EURO) 単剤が堅調に推移していることに加え、配合剤が主要国に出揃ったこともあり伸長持続。
メバロチン 【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	33 (23)	41 (26)	8 (3)	欧州子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では-7億円(-7mil EURO) 自社販売、ジェネリックメーカーへの販売とも減少。

オルメテック/オルメテックプラス、メバロチンの2007年度上半期実績は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月の実績となっております。

(2007年1-3月実績)：オルメテック/オルメテックプラス 64億円 (€40mil)、メバロチン 16億円 (€10mil)

12.連結財務諸表

連結貸借対照表<資産の部>

(単位：億円)

	2007.3.31		2007.9.30		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
流動資産	10,158	62.1	9,449	62.3	-709	
現金及び預金	1,726		639		-1,087	----- 手元流動性（現預金＋有価証券＋投資有価証券他）
受取手形及び売掛金	1,972		1,908		-64	合計 6,526億円（対07年末 -551億円）
有価証券	4,489		4,905		416	【内容】当期利益＋602億円、配当金支払-219億円
たな卸資産	1,078		1,051		-27	自己株式取得-332億円、未払金等支払-670億円等
繰延税金資産	634		600		-34	
その他	268		355		87	
貸倒引当金	-7		-8		-1	
固定資産	6,210	37.9	5,710	37.7	-500	
有形固定資産	2,489	15.2	2,404	15.9	-85	
建物及び構築物	1,425		1,408		-17	
機械装置及び運搬具	400		358		-42	----- 子会社の連結除外*による減少
土地	380		366		-14	
建設仮勘定	120		112		-8	
その他	163		160		-3	
無形固定資産	602	3.7	538	3.5	-64	
のれん	186		168		-18	
その他	416		370		-46	
投資その他の資産	3,120	19.0	2,767	18.3	-353	
投資有価証券	2,622		2,459		-163	----- 時価評価差益の減少
長期貸付金	16		15		-1	
前払年金費用	180		37		-143	----- 退職給付制度の変更に伴う減少（退職給付引当金との相殺）
繰延税金資産	89		60		-29	
その他	216		201		-15	
貸倒引当金	-4		-3		1	
資産合計	16,368	100.0	15,158	100.0	-1,210	

*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。
 2006年度においては、連結子会社のうち、上半期に和光堂（株）、富士製粉（株）、下半期に第一化学薬品（株）、（株）第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ（株）、目黒化工（株）、三共エール薬品（株）、第一メディカル（株）等が連結除外となりました。
 2007年度においては、第一ファインケミカル（株）、埼玉第一製薬（株）等が連結除外となりました。

連結損益計算書

(単位:億円)

	2006年度		2007年度		増減	増減内容
	中間期	構成比 (%)	中間期	構成比 (%)		
売上高	4,858	100.0	4,437	100.0	-421	----- 欧米 (06年度:米、07年度:欧) 決算期変更に伴う影響額 <u>-174億円</u> グループ外自立化対象としている事業の縮小 <u>-421億円</u> オルメサルタン等主力製品を中心に売上が拡大 <u>+174億円</u>
売上原価	1,380	28.4	1,132	25.5	-248	----- 原価率 <u>-2.9P</u> 高原価率である非医薬事業子会社を連結除外した一方、オルメサルタン等の低原価製品比率が向上
売上総利益	3,478	71.6	3,305	74.5	-173	
販売費及び一般管理費	2,695	55.5	2,366	53.3	-329	----- 非医薬事業のグループ外自立化に伴う減少 <u>-151億円</u>
広告宣伝費及び販売促進費	518		506		-12	----- 欧米決算期変更に伴う影響額 <u>-88億円</u>
給料・賞与及び手当	542		468		-74	----- 国内要員適正化に伴う減少等
退職給付費用	37		-		-37	
研究開発費	849		783		-66	----- 国内要員適正化に伴う減少等
その他	747		609		-138	----- 減価償却費、賃借料等の減少
営業利益	784	16.1	939	21.2	155	
営業外収益	115	2.4	87	1.9	-28	
受取利息	40		44		4	
受取配当金	26		20		-6	
金融派生商品収益	23		0		-23	
営業外費用	17	0.3	19	0.4	2	
経常利益	882	18.2	1,007	22.7	125	
特別利益	245	5.0	40	0.9	-205	
固定資産売却益	16		13		-3	
関係会社株式処分益	206		23		-183	----- 非医薬品事業のグループ外化に伴う子会社売却益の減少 (2007年度 第一ファインケミカル、埼玉第一製薬等)
投資有価証券売却益	7		3		-4	
過年度研究開発費精算益	16		-		-16	
特別損失	143	3.0	67	1.5	-76	
固定資産処分損	16		8		-8	
事業統合関連損失	78		40		-38	----- 海外事業統合関連費用等の統合関連費用の減少
事業再編関連損失	19		6		-13	(2007年度 システム開発費用 <u>18億円</u> 、 拠点統廃合関連 <u>7億円</u>)
偶発損失引当金繰入額	0		8		8	
税金等調整前当期純利益	984	20.2	980	22.1	-4	
法人税、住民税及び事業税等	314	6.4	377	8.5	63	----- 法人税率 31.9%→38.5%
少数株主利益	1	0.0	0	0.0	-1	(2006年度 米国子会社において、安定的な収益見通しに伴い 税効果を認識)
当期純利益	669	13.8	602	13.6	-67	

*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。
2006年度においては、連結子会社のうち、上半期に和光堂(株)、富士製粉(株)、下半期に第一化学薬品(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ(株)、目黒化工(株)、三共エール薬品(株)、第一メディカル(株)等が連結除外となりました。
2007年度においては、第一ファインケミカル(株)、埼玉第一製薬(株)等が連結除外となりました。

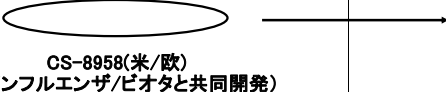

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2006年度 中間期	2007年度 中間期	増減	増減内容
税金等調整前中間(当期)純利益	984	980	-4	
減価償却費	197	188	-9	
退職給付引当金の増減額	-5	-246	-241	} 制度変更に伴う前払年金との相殺および 確定拠出年金制度への移管に伴う未払振替等
前払年金費用の増減額	4	143	139	
売上債権の増減額	55	46	-9	
たな卸資産の増減額	46	-7	-53	
仕入債務の増減額	-52	-81	-29	
未払金及び未払費用の増減額	8	-650	-658	} 要員適正化や機能子会社への転籍に伴う 退職金未払等の支払い
その他	-89	-73	16	
法人税等の支払額	-451	-368	83	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	697	-68	-765	
短期運用資産の増減額	-61	89	150	
固定資産の取得・売却等	-106	-127	-21	
投資有価証券の増減額	-148	-30	118	
貸付金の増減額	3	7	4	
新規連結子会社の株式取得	-272	-	272	---- 06年度:ゼファーマ株式取得
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	249	88	-161	} 06年度:和光堂等 07年度:第一ファインケミカル、埼玉第一製薬等
その他	9	29	20	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	-327	56	383	
借入金の増減額	-42	-42	0	
自己株式の取得による支出	-1	-334	-333	---- 07年度:10百万株取得(332億円)
配当金の支払額	-182	-219	-37	---- 1株当たり5円増配
その他	-7	-1	6	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	-232	-595	-363	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	2	-1	-3	
V 現金及び現金同等物の増減額	140	-608	-748	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	4,010	5,132	1,122	
VII 連結範囲の変更による増減額	9	5	-4	
VIII 非連結子会社との合併に伴う増加額	-	10	10	
IX 現金及び現金同等物の期末残高	4,158	4,539	381	

13.開発パイプラインの状況

第一三共グループ開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor WeiChol オルメテック カルプロック アーチスト メパロチン クレメジン ハンブ リパロ サンリスム ヘブニコール	DZ-697b(米/欧/日) (抗血小板剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (虚血性心疾患) DB-772d(米/欧) (経口抗Xa剤)	DU-176b(米/欧/日) (経口抗Xa剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (末梢性血管疾患) SUN 4936h(米/欧) (急性心不全治療剤/導出先探索中) ★CS-866RN(日) (慢性糸球体腎炎) ★CS-866CMB(日) (オルメサルタンとビロクロロチアジドの配合剤) CS-747(日) (抗血小板剤)
糖代謝	ファステック	SUN E7001(日) (II型糖尿病/導出先探索中) AJD101(米/欧) (インスリンシグナル経路活性化)	CS-917(米/欧) (糖新生阻害) CS-011(日) (グリタゾン系) AJD101(日) (インスリンシグナル経路活性化)
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クレビット	DC-159a(米/欧) (ニューキノロン剤) DX-619(米/欧/日) (ニューキノロン剤) CS-758(米/欧) (抗真菌) 	DU-6859a inj(米) (ニューキノロン剤/注射) CS-023(米/欧/日) (カルバペネム系抗生物質) レボフロキサシン注(日) (ニューキノロン剤) CS-8958(日) (抗インフルエンザ)
癌	Camptosar トホテン クレステン	CS-7017(米/欧) (PPARγ作動薬) 	CS-1008(米/欧) (抗DR5抗体)
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤)	CS-712(日) (スギ花粉症)
骨・関節	ロキソニン モービック		CS-706(米/欧) (COX-2阻害剤) SUN E3001(日) (骨粗鬆症治療剤/導出先探索中)
その他	Venofer Evoxac オムニパーク オムニスキャン フェロン ユリーフ	SUN N8075(米/欧) (脳神経保護剤/セクワが開発)	SUN N4057(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤) CS-088(米/欧/日) (緑内障/参天と共同開発) SUN11031(日) (神経性食欲不振症) SUN11031(米/欧) (カヘキシア)

★効能追加、剤形追加等

2007年7月の第1四半期決算発表以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) : DB-772d(米/欧)、AJD101(日)、SUN 0588r(日)
- ステージの変更など : CS-8663(米)、CS-8663(欧)、CS-8958(日)、CS-1008(米/欧)、CS-1401E(日)、SUN 0588r(米)、
- 開発中止など : CS-866RN(日) [Phase2試験において、有効性・安全性は確認できたが、研究開発ポートフォリオのCS-917(米/欧) [研究開発ポートフォリオの観点から開発中止]
CS-712(日) [研究開発ポートフォリオの観点から開発中止]
CS-706(米/欧) [導出済]

Phase3	申請/承認
<p>GS-747(米/欧) (抗血小板剤)</p> <p>HGF遺伝子プラスミド(日) (末梢性血管疾患)</p>  <p>☆CS-866DM(日) (糖尿病性腎症)</p> <p>☆CS-866AZ(日) (オルメサルタンとアゼルニジピン の配合剤)</p>	<p>☆CS-8663(米) (オルメサルタンとアムロジピンの 配合剤/承認・上市)</p> <p>☆CS-8663(欧) (オルメサルタンとアムロジピンの 配合剤/申請中)</p>
<p>CS-011(米/欧) (グリタゾン系)</p>	<p>☆WeiChol DM(米) (糖尿病/申請中)</p>
<p>SUN A0026(北米) (ペネム系抗生物質/レプリダインに 導出)</p> <p>☆レボフロキサシン高用量(日) (ニューキノロン剤)</p>	<p>DF-098(日) (Hibワクチン/承認)</p> <p>DU-6859a oral(日) (ニューキノロン剤/経口/申請中)</p>
<p>AMG162(日) (デノスマブ / 抗RANKL抗体/ P3:癌骨転移、P2:骨粗鬆症)</p> <p>☆CS-600G(日) (ロキソプロフェンゲル製剤)</p>	<p>☆LX-P(日) (ロキソプロフェンテープ製剤/申請中/ リードケミカルと共同開発)</p>
<p>SUN Y7017(日) (軽度・中等度および高度アルツハイマー 型認知症)</p>   <p>KMD-3213(中国) (排尿障害治療剤)</p>	<p>☆CS-1401E(日) (麻酔用鎮痛剤/承認・上市)</p> <p>SUN 0588r(米/日) (米:高フェニルアラニン血症/ バイオマリンに導出/申請中 日:トトラヒド'ロヒオアテリン反応性 高フェニルアラニン血症/申請中)</p> <p>☆DL-8234(日) (フェエロン効追/C型慢性肝炎/ リバピリン併用療法/申請中)</p>

DL-8234(日)、SUN N8075(米/欧)
観点から開発中止]

第一三共グループ 開発パイプライン (1)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
循環器	CS-747	プラスグレル	経口剤	急性冠症候群 / 抗血小板剤	第一三共、 宇部興産
	—	HGF遺伝子プラスミド	注射剤	末梢性血管疾患、虚血性心疾患 / HGF遺伝子医薬品、血管新生療法	アンジェスMG (販売提携)
	DU-176b	—	経口剤	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予 防、静脈血栓塞栓症の予防・治療 / 経口抗Xa剤	第一三共
	★CS-8663	オルメサルタン メドキシミル、 ベシル酸アムロジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866DM	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	糖尿病性腎症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤	第一三共
	★CS-866AZ	オルメサルタン メドキシミル、 アゼルニジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866CMB	オルメサルタン メドキシミル、 ヒドロクロロチアジド	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 利尿剤	第一三共
	SUN 4936h	カルペリチド (遺伝子組換え)	注射剤	急性心不全 / α 型ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド製剤	アスピオファーマ
糖代謝	CS-011	リボグリタゾン	経口剤	糖尿病 / インスリン抵抗性改善剤	第一三共
	AJD101	—	経口剤	糖尿病 / インスリンシグナル経路活性化剤	味の素
	★WelChol DM	塩酸コレセバラム	経口剤	糖尿病 / 胆汁酸吸着剤	ジェンザイム

★効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
米欧	共同開発 (イーライリリー)	P3	<ul style="list-style-type: none"> ・非臨床試験において、他剤より血小板凝集抑制作用が強く、また作用発現が早いことが認められている血小板凝集阻害薬である。 ・臨床試験において、血小板凝集抑制作用に個人差が少ないことが認められている。 ・米欧はイーライリリーと共同開発。
日	自社	P2	
米欧	アンジェスMG	P2 (末梢)	<ul style="list-style-type: none"> ・肝細胞増殖因子(HGF:Hepatocyte Growth Factor)の遺伝子を筋肉内投与することにより、病巣局所でHGFを産生させ、血管新生を促進する再生医療法である。治療が困難な「末梢性血管疾患(閉塞性動脈硬化症、バージャー病)」および「虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)」などの新規治療法として期待される。 ・アンジェスMG社と提携し、日・米・欧における独占的販売権を取得、アンジェスMG社による本剤の開発を支援し、再生医療への国際的貢献を図る。
		P1 (心臓)	
日	P3 (末梢)		
米欧	自社	P2	<ul style="list-style-type: none"> ・抗Xa作用を有し、ヒトにおける高い経口吸収性が確認されている抗凝固剤である。 ・ヒト経口投与試験において、トロンビン生成が用量相関的に抑制されることが確認されている。
日	自社	P2	
米	自社	承認 (07.09)	<ul style="list-style-type: none"> ・オルメサルタンとCa拮抗剤(アムロジピン)との配合剤 ・米国商品名:エイゾール(Azor)
欧	自社	申請済 (07.09)	
日	自社	P3	<ul style="list-style-type: none"> ・ORIENT試験実施中 ・効能追加
日	自社	P3	オルメサルタンとCa拮抗剤(アゼルニジピン)との配合剤
日	自社	P2	<ul style="list-style-type: none"> ・発売: 米国2003年9月、欧州2005年6月 ・オルメサルタンと利尿剤(ヒドロクロロチアジド)との配合剤
米欧	自社	P2 (導出先探索中)	<ul style="list-style-type: none"> ・α型ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドで、血管拡張作用および利尿作用を併せ持ち、日本においては既に1995年に急性心不全の適応を取得、上市された。以来、着実に成長し、本領域の中心的薬剤となっている。
米欧	自社	P3	<ul style="list-style-type: none"> ・新規グリタゾン系の糖尿病治療薬であり、非臨床試験において他剤より強いPPARγ活性化作用が認められている。 ・臨床試験において、他剤を上回る用量依存的な糖・脂質代謝改善が確認されている。
日	自社	P2	
日	共同開発 (味の素)	P2	<ul style="list-style-type: none"> ・新規メカニズムの糖尿病治療薬 ・経口投与でインスリンのシグナル経路を活性化することにより血糖降下作用を示す薬剤であり、種々の糖尿病モデルにおいて血糖降下作用が認められている。
米欧	自社	P1	
米	自社	申請中 (06.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・効能追加 ・通常治療で効果のない2型糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法に付加的に用いられることが期待される。 ・臨床試験において、インスリン併用患者のHbA1cレベルの低下が確認されている。

【原則P II以降の課題を掲載】

第一三共グループ 開発パイプライン (2)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
感染症	DF-098	乾燥ヘモフィルスb型 結合体ワクチン	注射剤	インフルエンザ菌b型による 感染症の予防	サノバツール (合弁会社と販売提携)
	DU-6859a	シタフロキサシン水和物	注射剤 経口剤	細菌感染症 / ニューキノロン剤	第一三共
	GS-023	—	注射剤	細菌感染症 / カルバペネム系抗生物質	第一三共
	GS-8958	—	吸入剤	インフルエンザ	第一三共
	★レボフロキサシン高用量	レボフロキサシン	経口剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	★レボフロキサシン注	レボフロキサシン	注射剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	SUN A0026	ファロペネム メドキシミル	経口剤	細菌感染症/ペネム系抗生物質	アスピオファーマ
癌	GS-1008	—	注射剤	抗DR5抗体	第一三共
骨・関節	AMG162	デノスマブ	注射剤	骨粗鬆症/抗RANKL抗体 癌骨転移/抗RANKL抗体	アムジェン
	★LX-P	ロキソプロフェン ナトリウム	テープ製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	★CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム	ゲル製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	SUN E3001	(慣用名) ヒト副甲状腺ホルモン	経鼻剤	骨粗鬆症	アスピオファーマ
その他	SUN Y7017	メマンチン塩酸塩	経口剤	アルツハイマー型認知症/ NMDA受容体拮抗剤	メルツ
	SUN N4057	—	注射剤	脳梗塞急性期/ セロトニン1A受容体アゴニスト	アスピオファーマ
	KMD-3213	シロドシン	経口剤	前立腺肥大症に伴う排尿障害改善/ α1A受容体選択的拮抗剤	キッセイ薬品
	SUN11031	(慣用名) ヒトグレリン	注射剤	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ
	CS-088	オルメサルタン	点眼剤	緑内障/アンジオテンシンII受容体拮抗剤	第一三共
	★DL-8234	インターフェロン-β	注射剤	C型慢性肝炎 (リバビリンとの併用療法)	東レ
	★CS-1401E	フェンタニルクエン酸塩	注射剤	麻酔用鎮痛剤	ヤンセン
	SUN 0588r	塩酸サプロプロテリン	経口剤	高フェニルアラニン血症 テトラヒドロプロピオテリン反応性高フェニルアラニン血症	アスピオファーマ

★効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
日	サノフィパスツール 第一三共ワクチン	承認 (07.01)	・サノフィパスツール社により創製され、当社との合弁会社において開発、承認申請中の日本初の小児用インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチンである。Hibが主たる起炎菌である小児細菌性髄膜炎の発生率低下への貢献が期待される。 ・2007年1月26日承認 ・現在、上市にむけた準備を進めており、2008年3月から4月の上市を予定。
米	自社	P2	・幅広い抗菌スペクトラムと強力な抗菌力を有し、一般感染症のみならず難治性感染症に対する効果が期待できる広範囲のニューキノロン剤である ・日本では、呼吸器感染症および尿路感染症を中心に経口剤で開発中。 ・米国では、重症および耐性菌感染症を対象に注射剤で開発中。
日	自社	申請済 (06.09)	
米欧日	自社	P2	・薬剤耐性菌を含む各種病原性細菌に対する幅広い抗菌スペクトラムと強力な活性を有するカルバペネム系の抗生物質である。 ・他のカルバペネムよりも長い血中半減期を有する。
日	自社	P2	・長時間作用型のノイラミニダーゼ阻害薬であり、1回の投与のみで治療効果および週1回の投与での予防効果が期待できる。
米欧	共同開発 (ビオタ)	P1	・インフルエンザウィルスの感染部位である肺、気管に直接作用する吸入剤として開発中。
日	自社	P3	レボフロキサシンの用法用量変更[1回100mg(重症な場合は200mg)、1日2~3回から、1回500mg、1日1回に]
日	自社	P2	・レボフロキサシンの注射剤 ・剤形追加
北米	レプリダイン	P3	・世界初のペネム系経口抗生物質として1997年に日本において発売された一般名「ファロペナムナトリウム」のプロドラッグである。経口投与後に消化管から良好に吸収され、生体内でファロペナムに変換されて各種細菌に対して抗菌作用を発揮する。その抗菌作用は強力かつ殺菌的である。 ・北米でレプリダインに導出し、2005年12月に米国FDAに4つの適応症について承認申請したが、2006年10月にFDAより非承認の通知。 ・2007年2月、販売先としていたフォレストは契約を解除。 ・現在、レプリダインは追加臨床試験の実施等についてFDAと協議中。
米欧	自社	P2	・細胞表面にDR5(Death Receptor 5)を発現した癌細胞に対してアポトーシスを誘導する。 ・DR5は、正常細胞ではほとんど発現しておらず、腫瘍細胞に選択的に作用することが期待される。
日	自社	P2	・RANKリガンド(破骨細胞の形成・活性化に必須のリガンド)をターゲットとする完全ヒト型モノクローナル抗体。
日	自社	P3	・骨粗鬆症や癌の骨転移を含む骨関連疾患の治療・予防薬として期待される。
日	共同開発 (リードケミカル)	申請済 (07.02)	・ロキソプロフェナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(テープ剤) ・リードケミカル社との共同開発
日	自社	P3	・ロキソプロフェナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤) ・東興薬品工業へ製造委託
日	自社	P2 (導出先探索中)	・ヒト副甲状腺ホルモン[hPTH(1-34)]の経鼻投与製剤 ・PTHは、カルシウム代謝調節ホルモンの1つであり、既存の骨粗鬆症治療剤が骨吸収を抑制することで作用を発現するのに対し、骨形成を促進する作用を持つ新しいタイプの骨粗鬆症治療剤となることが期待される。他社自己注射剤が米国で承認済み。
日	自社	軽度・中等度 P3 高度 P3	・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である。 ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される。 ・日本において「高度アルツハイマー型認知症」と「軽度・中等度アルツハイマー型認知症」に対するPhase3を実施中。
米欧	自社	P2	神経細胞のセロトニン1A受容体を活性化することにより、脳虚血によって惹起されるグルタミン酸の過剰遊離と神経細胞の興奮(脱分極)を抑制し、虚血による神経細胞死を抑制する。
中国	自社	P3	・前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤 ・前立腺の α 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ α 1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される。
米欧	自社	P2	現在までに発見されている摂食行動に関係するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。国内外で、食欲不振症、種々のかヘシアに対する治療薬として開発中。
日	自社	P2	
米欧	共同開発 (参天製薬)	P2	参天製薬と共同開発
日	共同開発 (東レ)	P2	
日	共同開発 (東レ)	申請済 (07.09)	α 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- β 製剤。
日	-	承認 (07.08)	・医師主導型治験 ・オピオイド鎮痛薬フェンタニルエン酸塩の小児における用法用量追加
米欧	バイオマリン	申請済 (米:07.05)	・国内では、BH4欠乏型の異型高フェニルアラニン血症の治療薬として上市されている。 ・最近の研究でフェニルアラニン水酸化酵素変異型の中にBH4反応性の高フェニルアラニン血症の存在が明らかになった。
日	自社	申請済 (07.03)	・米国:バイオマリンに導出、2007年5月に申請 ・欧州:バイオマリンからメルク・セローノにサブライセンス ・日本:効能追加申請、希少疾病用医薬品に指定



将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。

何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たっては、これら見通しのみ全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。